



まちの価値と都市計画

饗庭 伸 先生

(東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学科教授)

都市計画において、まちに対して様々な価値を感じている人々が関わっているなかで、それぞれが納得できるような価値を決めるための「評価」の重要性を提示。「視点」、「データ」、「価値観」という3点に分けて詳述。

講演内容(要約)

1. まちの価値をどのように評価するか

都市計画は多くの利害関係者が関わるため、賛成・反対など様々な意見が生じやすく、合意形成が難しい分野である。そのため都市計画を議論する際には、「まちの価値」をどのように評価するかが重要となる。評価とは、視点・データ・価値観の組み合わせによって成り立つものである。

2. 評価するための「視点」

まず、視点が異なれば評価結果も変わるため、どの視点で評価するかを絞る必要がある。例えば道路整備を評価する場合に、景観の視点からだと否定的な結果になり、交通安全の視点からだと肯定的な結果になることもある。ある道路を評価する場合はまちの皆さんと、行政がお互いに視点を出し合って絞り込んでいくことが大事である。

3. 評価するための「データ」

次に、評価にはデータが不可欠である。データには統計など既存のものと、アンケートや調査など自ら収集するものがある。さらにデータには、数値化できる定量データと、言葉や意見などの定性データが存在する。まちづくりでは両者を組み合わせて理解することが重要であり、定性的な意見も整理や分析によって評価に活用することができる。ただし、データは偏りのない形で収集することが重要であり、無作為抽出などの方法によって代表性を確保する必要がある。

4. 評価するための「価値観」

最後に、評価結果をどのような基準で判断するかという「価値観」を事前に共有しておくことも重要である。例えば何割以上の賛成があれば採用するのかといった基準をあらかじめ議論しておかないと、評価に対する結果が定まらず、議論がまとまらなくなる可能性がある。大事なのは、評価結果をそのまま結論とするのではなく、そのデータと評価を踏まえながら議論し、合意形成していくことである。また、現在行われている調査を通じて取得したデータや評価を、未来に繋いでいくことも大事である。

質疑応答

Q. 評価者の間であらかじめ合意形成をしておくという説明と、最終的には調査データを見ながら議論して合意形成を行うという説明があった。そうすると、最終的にデータに合わせて結論を決めることになってしまうのではないか。

A. 評価に関する合意形成は、基本的には二段階で考えるのが望ましい。まず重要なのは、データを取る前の段階で、どのような視点で評価するのか、どのようなデータを用いるのか、またどのような価値観や基準で判断するのかを、関係者の間で事前に話し合っておくことである。例えば「反対が7割を超えた場合は計画を見直す」など、判断基準をあらかじめ決めておく方法も考えられる。

一方で、実際に収集されたデータは必ずしも完全ではなく、アンケートなどでも回答の偏りなどが生じることがある。そのため、調査結果が出た後には、そのデータを踏まえて改めて議論し、最終的な判断を

行うことも必要である。つまり、事前に評価の枠組みを共有し、最終段階ではデータを参考にしながら議論し合意を形成するという、二段階のプロセスで進めることがよいのではないか。

Q. 評価には住民が関わることとされていたが、住民がどのように評価に関わることができるのか、方法や事例があれば教えてほしい。

A. 評価に住民が関わるためには、まず住民と行政が互いに敬意と信頼を持って議論できる場を設けることが重要である。また、誰が評価を行うのかを決めることも重要で、それは市民参加の場や区議会だったりする。中でも、都市計画やまちづくりの分野では、住民と行政職員が参加する会議体があり、そこで評価の視点や方法を決定し、そこが中心となって価値を測っていくことはとても大事である。